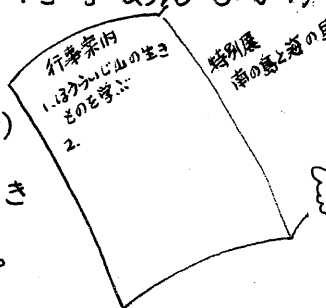


博物館だより

第1号

□あたらしい行事^{ぎょうじ}あんない^いができましたよ!

だい1かいめは
5月29日(日ようび)
「ほうらいじ山の生き
ものを学ぶ」です。

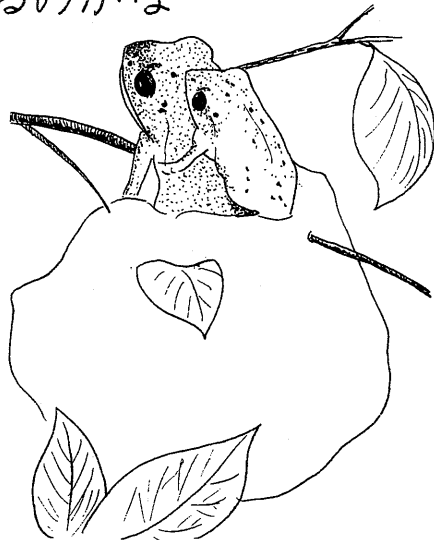


おともだちといっしょに^{さんか}参加してね



□ことしのモリアオガエルの
^{さんらん}産卵はいつになるのかな

たまごをはじめて見つけた日	
昭和55年	5月13日
56年	5月17日
57年	5月10日
58年	5月6日
59年	5月15日
60年	5月12日
61年	5月15日
62年	5月13日
63年	月 日

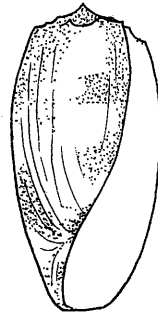


アンボイテ

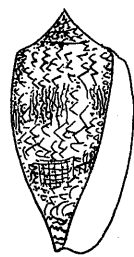
□たのしい春の特別展

—南の島と海の貝—

みなみの海にはきれいな貝がおおくみられ
ます。でもおそろしい貝もいますよ。



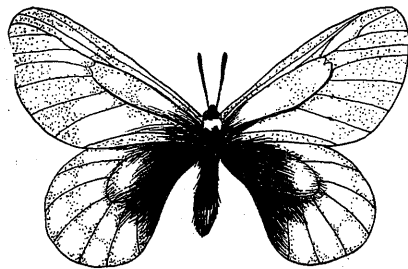
アンボイテ



タガヤサミナシ

○イモガイのなかまは
^{どうどく}猛毒をそっていて
さされるとすう時
間で死んでしま
います。

□ウスバシロチョウ・ギフチョウの幼虫は何をたべて



ウスバシロチョウ 大きくなるの

幼虫はムラサキケマンを食草にします。
4月の中ごろからヒラヒラととぶす
がたがみられるかもしれないよ。

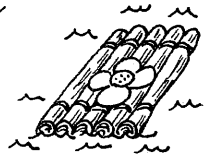
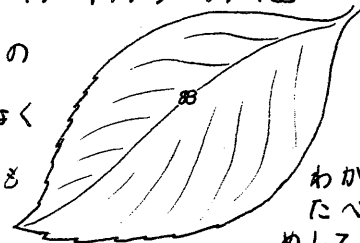


ギフチョウ

幼虫はカン
アオイを食草
にします。ほ
くぶつかん
ではさなぎ
が3月18日
から羽化を
はじめたよ。

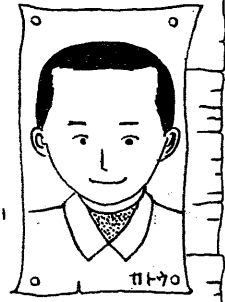
□ふしぎな花・・・ハナイカダの花

あわいみどりいろの花がほの
まんなかに咲くかわったしよく
ぶつです。ほうらいじ山でも
見ることができます。



わかばはゆでれば
たべられます。た
めしてみてください。

こんどはくぶつ
かんにきました
^{カトウツグミ}
加藤貞亨とい
います。「友の会」
の担当をしますの
でよろしくおねがい
します。カトさんと
さがるに声をか
けてください。



あけましておめでとうございます

博物館の元旦の朝です

平成2年1月1日は館長がめくりました。この日はもう2度とめぐってくることはありません。これも小さな実践です。

1990
平成二年

石上の鏡もち

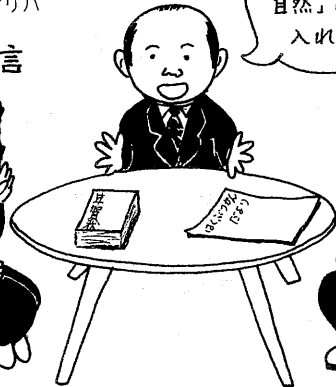
玄関ロビーの貝化石の石の上に鏡もちを供え新年を祝いました。



ウラシロ ユズリハ

新年にあたり一言

おそうじだったらまかせてネ。館内のすみずみまできれいにしますよ。



小さな実践、大きな実践、みなさんに楽しい博物館活動を考えますよ。東愛知新聞の「鳳来寺山の自然」はいっそう熱を入れて書きます。

友の会活動を3月31日まで充実します。ことしはつづいて会員になってネ。よろしくおねがいします。

鳳来寺山自然科学博物館

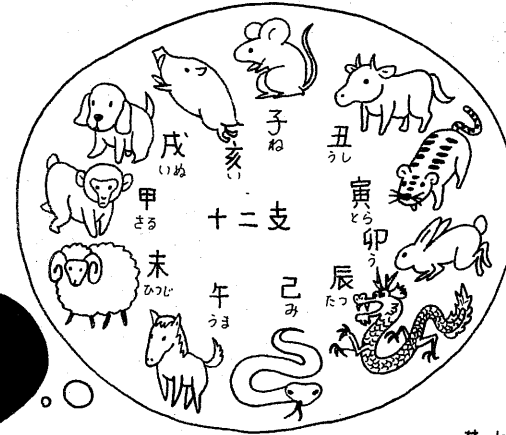
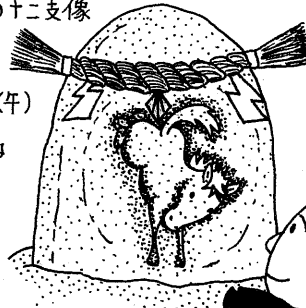
みんなの幸を

鳳来寺表参道の十二支像

は有名です。

ことしは馬(午)年で馬の像はしめ縄で飾られています。

この前を通る人が立ち止って合掌しました。



松竹梅

毎年玄関入口で松竹梅の飾りつけをしています。

近くからみても遠くから見て自然のムード

モウソウ竹

ウメ



マツ(五葉松)

ナンテン

クマササ

いっほいです。こんな門松のかわりの松竹梅は日本中でここだけしか見られなかつたと思います。

はくぶつかん

たどり

国旗掲揚とサービス

年末年始は休館日です。それでも鳳来寺や東照宮にお詣りする人が多いことから見学していただきました。これも館長の

新年のサービスです。

来館、1日43人。2日57人。3日60人もみました。)



大雪

この地方としては平成2年1月16日早朝から降った雪は大雪です。積雪は5cm、鳳来寺山と博物館と銀世界に変わってしまいました。

お知らせとおねがい

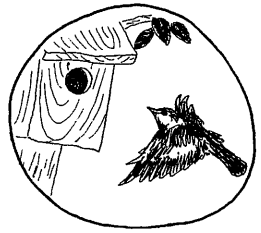
平成元年度最後の学習会となりました。一番寒い時期のこと、大変ですが、ぜひ出席してください。注意事項、いつものとおり風邪をひかないように心がけましょう。

冬の鳳来寺山探検 2月18日(日)

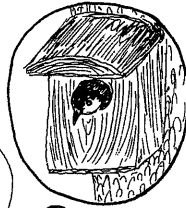
申し込みはハガキでね

自然のみた春のゆめ

— 博物館だより



わたしは
ウグイスに住
んでもらいたいワ



ぼくは
ヤマカから住
んでもらいたいワ



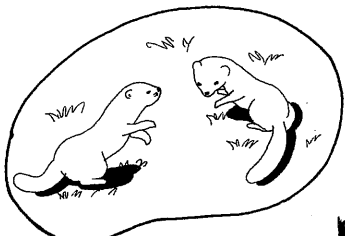
野鳥の巣箱づくり

(平成元年12月3日)

野鳥に喜んでまてもらうために、つぎの4つをすることです。

- ① エサを与える
- ② 水を与える
- ③ 実のなる木を植える
- ④ 巣箱を与える

何もせずにいたら野鳥はこなくなってしまう。



テンの夢

テンはイタチ科の動物。胴が細長く、足は短く、尾が長い。口先はとがり、耳は丸く小さい。

耳から喉・胸にかけてオレンジ色。他は茶褐色の毛色です。

平成2年3月2日、設楽町の県道上で車の事故で死んでしまいました。

遺体が博物館にとどけられました。その顔はやさしく、天国で楽しい夢をみているようでした。

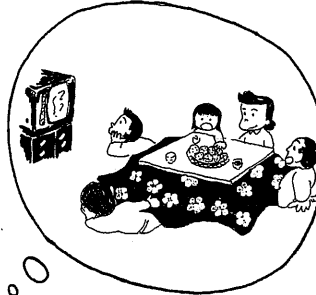
冬の鳳来寺山探検

(平成2年2月18日)

テレビで見た探検は案外だったけど、実際にやった探検はさびしかったネ...

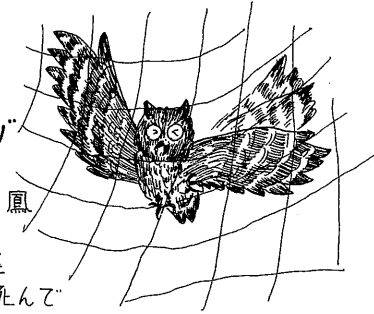
探検が終って2~3日は腰や足がいたみました。

みんなのよい思い出になりましたね。



オコノハズクのナゾ

鳳来寺山の東側、鳳来野能登瀬地内でオコノハズクが発見されました。すでに死んでいました。



なぜこのようなところにいたのか不思議です。エサをさがしているうちにアミにかかってしまったのです。それしか考えられません。

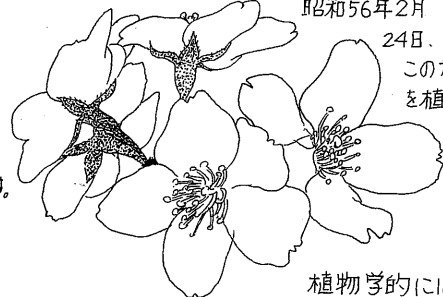
カワツサクラ咲く

(平成2年3月10日)

カワツとは静岡県伊豆半島の先端河津町のことです。この町の商工会と鳳来町の商工会が親善提携をしました。

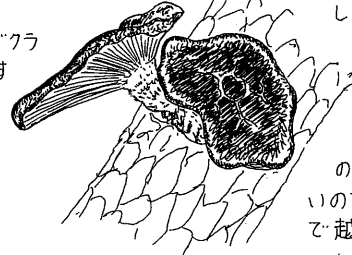
昭和56年2月24日。

このカワツサクラを植えました。



マツの木にシイタケ

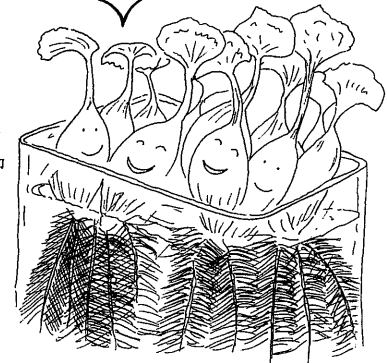
平成2年2月22日、博物館のシイタケ実験で、アカマツの木にシイタケが発生。びっくりしました。



ホテイソウの夢

ホテイソウはコナギ科の水生植物。寒さに弱いので博物館の部屋の中で越冬しました。

じっとかまんしていますが夏の夢を見ていると思います。



...おもしろい自然の発見...

— 博物館だより



タイ中学校長ら博物館見学 (平成2年4月3日)

ヨコタ博物館(作手村)横田正臣館長がタイ西部ヘチヤフ県ケンワラチャン中学校、アウエランガム校長外4名の教師を案内して見学が行われました。

同じアジアの人で貧困と施設の不備

などと聞いながら子供たちを教えている先生です。

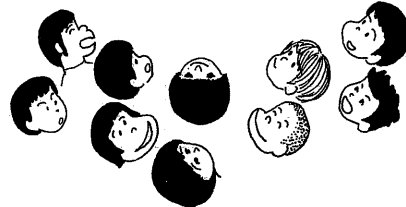
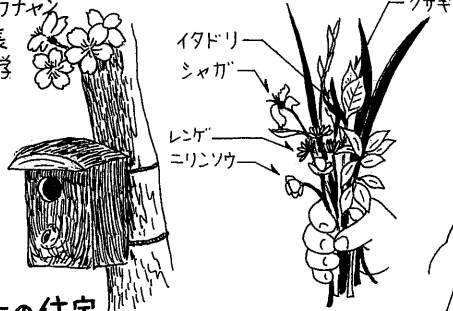
時間がたつのを忘れて館長が説明しました。そのことを読売新聞に「教育の参考に鳳来寺山の博物館見学」と大みだして知らされました。



新しいヤマカガシの住宅

(平成2年4月5日)

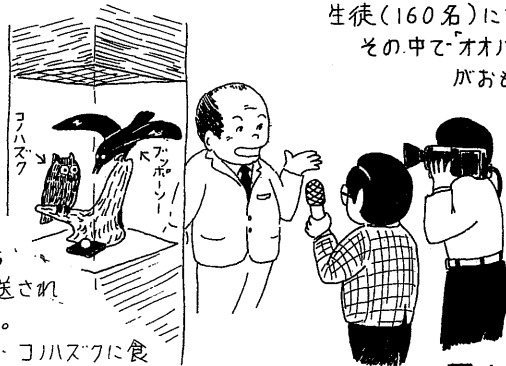
学習会で作った巣箱にヤマカガシが住みつきました。とても楽しそうでした。



「右手と左手」の自然講話 (平成2年4月29日)

博物館のまわりにある植物、動物、岩石を教材に使ってありのままを話しています。館長の得意としている話は、「実物こそ師」で、一時シーンと静まり見学者が聞いています。

この日は西春町白木中学校生徒(160名)に話しました。その中で「オオバコノ根」がおもしろかったようです。



鳳来寺山自然科学博物館

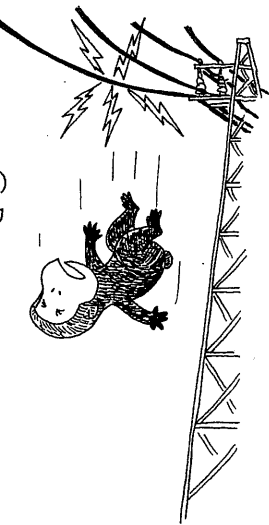


サルとレンゲソウ新聞

(平成2年4月19日)

博物館のまわりにレンゲソウがたくさん生えています。そのレンゲソウの花をサルが喜んで食べます。糸くずしてたまらないう...という情景です。

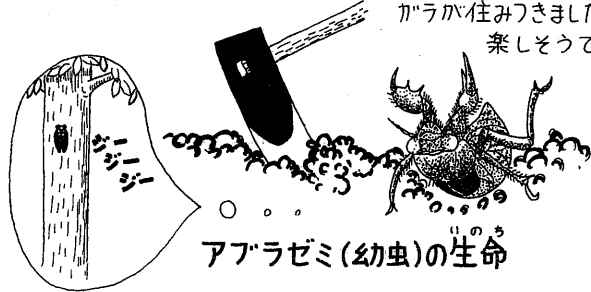
そのことを中日新聞の記者に話したら、取材し、夕刊に掲載されました。



感電死したサル

(平成2年4月30日)

鳳来寺布里地内の中部電力の高圧線にサルが近づき、感電死した事故がありました。一人前に成長したオスです。電気は目にみえませんが、そのおそろしさは、みんな知っています。サルは知らないのです、この事故をあわれに思います。



アブラゼミ(幼虫)の生命

平成2年4月8日 博物館の隣に住む日比野久美子(主婦)さんが畑を耕作中にアブラゼミの幼虫を発見して、博物館にとどけられました。さっそく飼育箱に入れて保護してやりましたが、5月11日に箱から外に出て、いなくなっていました。土の中にとぐって、暑い夏の日が来るまで、無事に生きのびてくれるように...祈ってやりました。

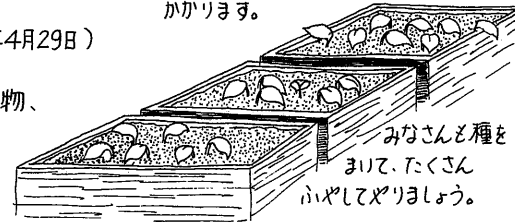
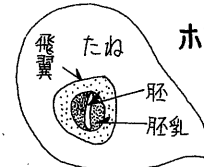
フッコウソウ・テレビ放送

5月11日東海テレビ(スーパータイム)午後6時から番組で「鳴かなくなったフッコウソウ」が放送されました。その一部は博物館で取材したものです。館長は、声を大きくして「昔の自然に戻そう... コリハズクに食べ物を与え、住宅をふやし、休息する場所を確保してやろう」と訴えました。

ホウライジュリの発芽

(平成2年4月20日)

このユリは、たねをまいてふやせます。たねから花が咲くまでの期間は、およそ4~5年がかかります。



みなさんと種をまいて、たくさんふやしてやりましょう。

コリハズクの行動

今年もコリハズクが新豊根ダム近くの森林で鳴き始めました。4月27日からです。

この鳥は静かな環境と昆虫がたくさんすむ自然を好みます。

夜行性の鳥ですから夜活動し、昼間は休息します。だから、昼間にきわうようなところは嫌います。



...初夏の自然...

博物館だより



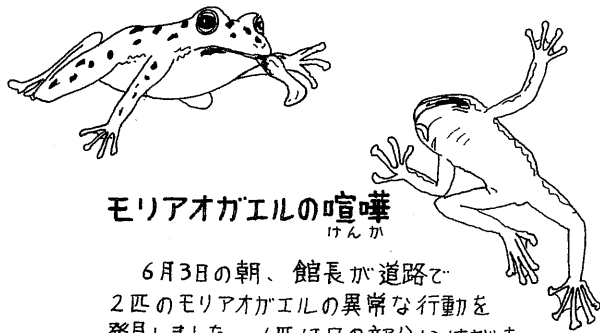
モリアオガエルの休息

「鳳来寺の生きものを学ぶ会」で参加者のひとりが、木の樹洞(あな)にいるモリアオガエルを見つけました。

オスです。メスは体が大きく、ここには入れません。

モリアオガエルには、樹洞(あな)があることは、生きるために大事なことです。

(平成2年5月27日)



モリアオガエルの喧嘩

6月3日の朝、館長が道路で2匹のモリアオガエルの異常な行動を発見しました。ノ匹は口の部分にけがをして死んでいました。

ノ匹は口から舌を長く出したままで、血がにじんでいます。手でさめると生きています。傷口を治療して逃がしました。

その原因は、けんかをしたものと思います。カエルには敵を攻撃する武器はまったくありませんので口と舌で争ったものと思います。

めったに見られない! ほんとはよかったなあ...

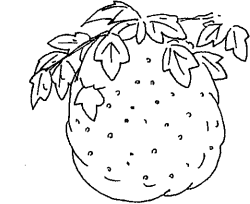


鳥の糞

たまには下を向いて歩くとおもしろい自然の発見があります。

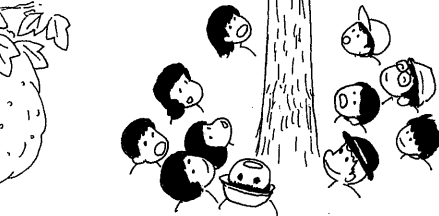
とりが木の上で虫を食べ糞をします。

その糞がアスファルトの道路に落ちるので白く点々と残っています。木の葉をとりが守っていることがわかります。



モリアオガエル博物館でも産卵

平成2年6月3日 2個

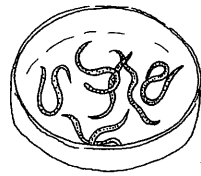


松枯れをさぐる

鳳来寺山のアカマツも枯れ始めました。

マツノイムシの被害が原因です。その正体を顕微鏡で見ましょう。肉眼では見えなかったものが何千びきと動いています。マツノサイセンチュウです。

春の特別展「森林の害虫」でこのことが詳しく説明されています。この展示は、特に東海物産の協力をいただいています。



「鳳来寺山の生きものを学ぶ会」の日に、杉の樹洞(あな)から顔を出して下をむいているムササビを発見しました。

なぜ顔を出していったのかな...

誰かが杉に強く触ったのでおどろいたのだと思います。

こんな情景はめったに見られないことです。

ムササビは別にバンドリとよみます。このバンは晩のこと、ドリは鳥のことをさします。飛膜を広げて鳥のように空中を滑空し、離れた木にしがみつくように着地します。

野外動物パネル完成

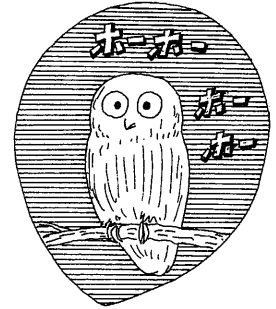
博物館屋外学習広場に「動物パネル」をとりつけました。

鳳来寺山とそのまわりに住む動物たちの生活のようすがよくわかります。6月3日が公開です。

東愛知新聞、新城支局の記者が取材した新聞記事の(6月4日)みだしは「山や里の動物大集合」です。子供たちがみたらきっとよろこぶでしょう。



アオバズクの鳴声と錯覚



毎年6月になると館長の自宅(鳳来町海老)の近くの山で、9時から11時ごろにアオバズクが「ホー、ホー」とよく鳴きます。

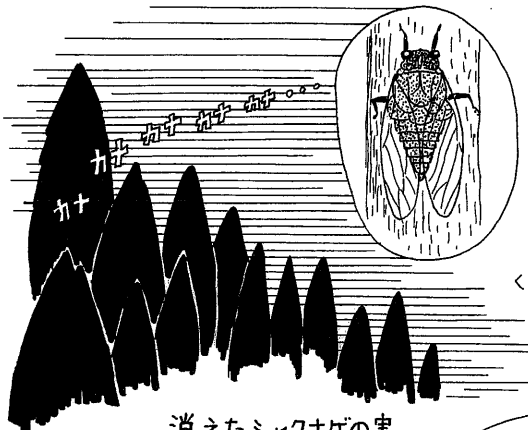
寝ていても聞えてきます。近所の人には「フッコウソウ」が鳴いたと聞いてますが、それはまちがいです。

フッコウソウ(コバズク)は3節音、フッコウソウと鳴きます。



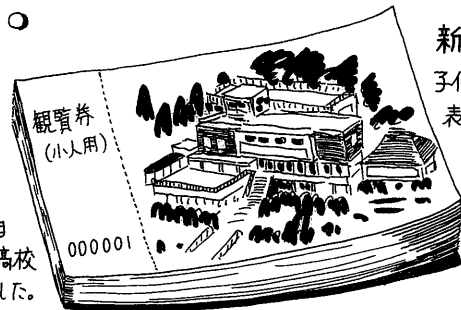
暑サニ負ケズ自然ヲ学ブ...

博物館だより

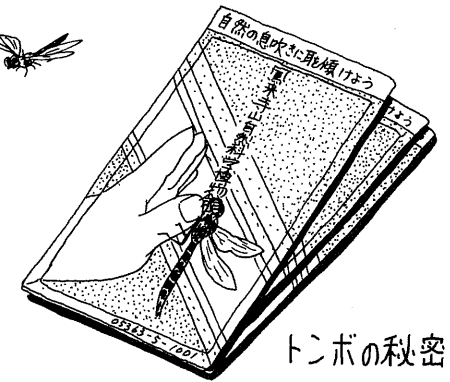


ヒグラシのまちがい

ヒグラシは真夏になってから夕方と朝方によく鳴きますが、6月23日夕方、鳳来寺高校の近くの杉の林で鳴きました。これはヒグラシが鳴く時期をまちがえたのです。



新しい観覧券
 子供用観覧券が新しくなりました。表は博物館の建物。裏面は鳳来寺山の地図です。

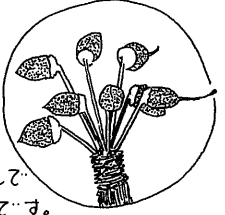


トンボの秘密

数年前のある朝のこと、館長が池の中の水生植物を観察していると、手のひらにオニヤンマがとまった...感動的なトンボとの出会いです。このことを証明する唯一の資料がパンフレット(大人用)です。60,000部印刷しましたが、全部配ってしまいました。

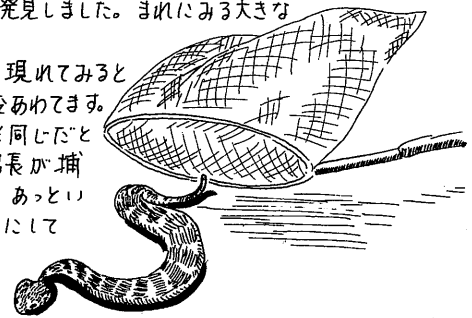
消えたシャクナゲの実

子孫を残すためにシャクナゲと種子を作ります。花が散ると小さな実ができ、その中に何百粒と種が入っています。山麓の観光協会の人たちが、一斉に摘んでまわります。それで実がノコどつてないので、実をつけたものからは、美しい花が咲かないためです。



マムシ騒動

大きなマムシを発見しました。まれにみる大きなマムシです。いざ目の前に現れてみるとびっくりして、大変あわてます。こんなことは誰と何したかと思いません。館長が捕虫網を使って、あっという間に生けどりにしてしまいました。



もうきましたよ...

親子の地学学習会だけ先着順...バスで行くため定員が決まっているからです。第1番は鳳来町の丸山貴史くん親子で、参加資格ができました。

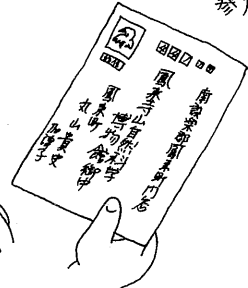


道ばたのカカシ

鳳来寺山表参道にそった畑にカカシがたくさん立っています。日中は観光でくる人の車ではこりだらけです。なぜカカシが必要なのかな...人も車と通らなくなった夕方サルが出没して、野菜や果物を食べてしまうのです。そこでカカシを立てたのですが、あまり効果はないようです。

フッポウソウ新聞

東愛知新聞(平成2年6月23日、土)の1頁分は、フッポウソウの記事です。館長の執筆で、約15年間の実践活動のあらましをまとめたものです。「新聞社とよく大きく出てくれたそのおかげ...館長とよくたくさん書いたそのおかげ...」とみんながいました。

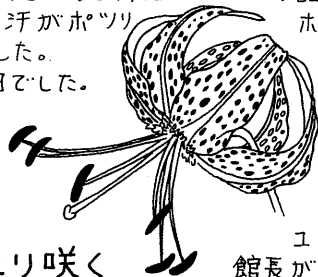


夏の目誌 … 自然をさぐるみんなの博物館 …



愛知県警察学校の見学

7月26日のことです。館長に敬礼して挨拶する姿に、道を歩いていた観光者と「さすが警察官だ、すばらしい…」と立ち止って見ていました。「実物こそ師」とする得意館長の頭から汗がポツリポツリと地面に落ちました。最高に暑い日でした。



コガネユリ咲く

平成2年7月13日

(長崎県上県郡対馬産)

剝製ありがとうございます
手でさわれる展示には子供たちが喜びますが、1つだけ心配があります。それは剝製を食べる虫が付き、毛の部分が多くなってほうからです。展示がおわりしたい。殺虫剤をたくさん使って害虫防除を行ないます。



とってどかわいいのね…

この大イシシにはおどろいた

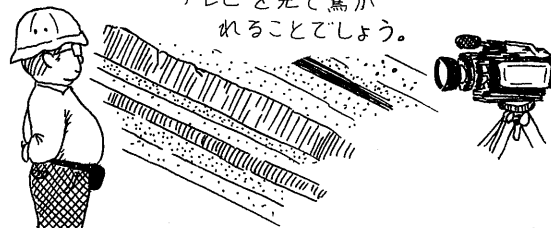
イヌによく似てるね。どこでみわけることができるのかな？

イシシ (今泉 操さんから)
グマキ (辻 信忠さんから)

キツネ (竹川 スさんから)

東京大学名誉教授、奈須紀幸先生来館

「日本列島の生いたち」をテーマにNHK放送大学が映画を企画、奈須先生の指導で博物館の地層と具化石が撮影されました。ここにも日本列島誕生の秘密がかくされています。そのうち映画は完成して全国のみなさんがテレビを見て驚かされることでしょう。



ホバシヤクナゲの蕾

8月19日確認
暑さに負けず、どう来年の花のしたくをしています。



クロスズメバチヒトリサマガエル

あさ 鳳来寺表参道を歩きながら車にひかれたヒトリサマガエルを見ました。よく見ると、クロスズメバチ(ハバチ)が一匹、カエルの肉をちぎって肉だんごにして運んでいました。絶滅寸前のこのハチが減りずに生きていたのです。館長はこの発見を東愛知新聞(8月31日)に「ハバチ出現」と題して書きました。

サルも体験して学ぶ

鳳来町の有線放送でサルの一斉駆除が知らされました。7月26日のこと。自由勝手に農作物を荒しめるので鉄砲をうっておどして追い払うのが目的です。こんな怖ろしい目にあうのははじめてです。今まで何も知らなかったサルにとってほよき体験学習になったことでしょう。

雑木林の自然

スズムシの鳴き声

夕方になると鳳来寺山の涼しい山の風が館内に入ってきます。それにつられて、すんだ美しい声の合唱が始まります。…

このスズムシは鳳来町兼本、菅沼将吉さんからいただいたものです。見学者の耳を楽ませて、大変喜ばれました。

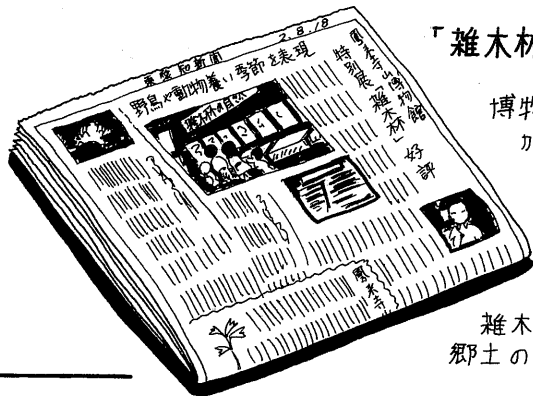


「雑木林の自然」新聞

博物館講堂で行われた夏の特別展「雑木林の自然」が平成2年8月18日 東愛知新聞で紹介されました。

- 「自分の領域を守り、空間を住み分け」
- 「静かな微生物を土に還元」
- 「植物群が多彩な野鳥や昆虫を養う」
- 「山里に一定の姿 採草地とマント」
- 「それでど消える雑木林の運命…」

雑木林についてこれほどくわしい新聞はない。郷土の自然史に残ると思います。



博物館だより 秋の自然日誌

秋のコノハズク

博物館ではコノハズクの研究をしています。秋から冬
の生活はまったく不明ですが、コノハズクほどここに住んで
いることは確かです。

その証拠に、
ときどき衰弱したり、

傷ついた状態で発見されます。

今年は10月11日〜三重県木曾峠村
で1羽、10月13日 豊川市内で1羽、10月17日

弥富野鳥園で2
羽見つかり
ました。

秋のコノハズク
の安全な限り
絶滅してしまひます。

秋のコノハズク
の研究は特別大切
に思います。



春 コナツタ
カエツキマス

マムシの標本 (9月27日)

マムシの標本展示が
増えました。

卵胎生の習性
から姿のまる子供を
産みます。

解剖中におなかの
中から卵が1つ見つかり
ました。これは新しい
発見です。

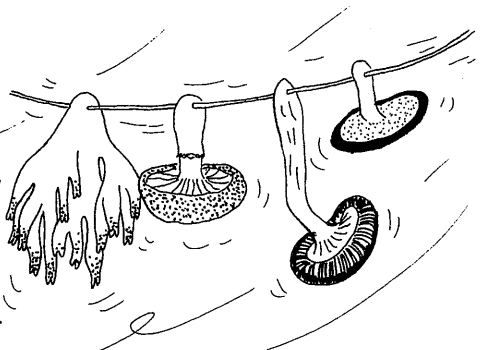
この卵の展示は、どこ
で見られるものではなく、
この博物館だけです。



キノコと風

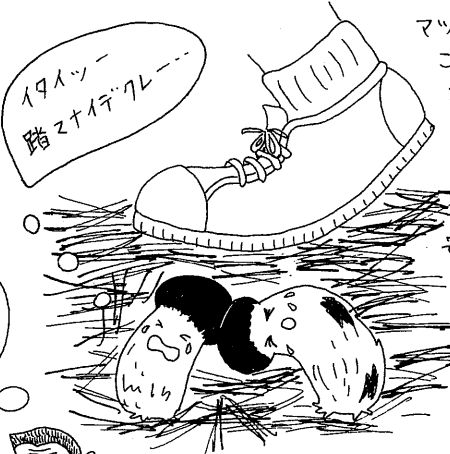
キノコを保存するには
まず乾燥することです。
乾燥しなかったら
2日位でくさり始
めます。

秋の風にゆらゆら
しているキノコを見学者は
ふしぎそうに
見ていました。



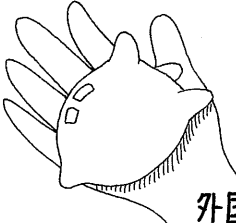
マツタケのかなしみ (10月31日)

マツタケは山へいってと、めったに見る
ことができません。それは数が
少ないからです。鳳来町玖老鶴
の安藤カ-さんから傷だらけ
のマツタケをいただきました。
山の中のこと... へんなこと
もあるのだなあと思いました。
安藤さんから説明を聞くと、マツ
の花れ菜の下から、生えようとたく
しているマツタケの上を、シロウトの
人が知らずに歩いたから...
と言われました。



カナリアナス

10月5日
鳳来町-色の
川合治夫
さんの寄贈

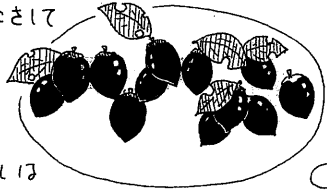


手のひらの上に
のせてみるとキツネの
顔そっくりです。
これカナナス科の
植物だと思つくと
驚くばかりです。
見学者が興味深く
観察しました。



カキ豊作の話題

〇 シブ柿とアマ柿と豊作です。
シブ柿の方は皮を剥いて串にさして
つるして乾かすと食べられ
ません。温度が下がってこ
ないと串にさされた部分から
くさってしまいます。



外国人留学生に自然講話 (10月24日)

外国の若い男女29人です。白色、黒色、黄色の
肌の人が集まりました。

来日の目的は、
「日本の文化を学ぼう」
です。館長は、すばらしい
博物館は都市、へいけいどこで見られるか
鳳来寺山の秋の自然はここだけか
見られせん。

そこで、
実物を使った
カキの話、
ヤマモの話などを行いました。
この話は留学生にたい
へんよこはれました。



こころは
暖かい秋で
串柿にするには何でぞ
どうやら木の上で
熟してしま
うぞうぞ。



〇 今年ばかりを獲か
なぜ食べないのか?...
味がまずいから食べないの
ではなく、
山の中と豊作で、いろいろ
な好物があったためです。
猿にとって何年に1度しか
こころ楽しい秋となりました。



ハボ飯

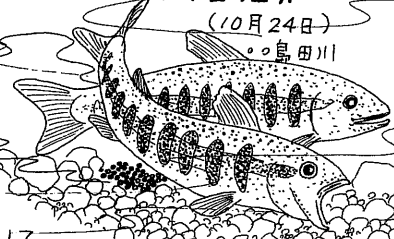
ハボとはクロスズメバチ
のこです。今年はどこで
と見られました。
こんなことは何年ぶりのうれしいニュースです。
ハボ飯を食べた家族が多かったことでしょう。

アマゴ産卵

(10月24日)
島田川

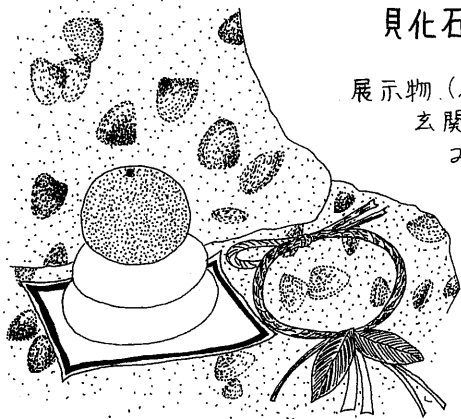
アマゴは
きれいな
清流で
水温の低
い場所を
好みます。

年々減少して
いる原因は産卵でききれいな川が少なくな
ためです。産卵のようすを、鳳来町愛郷、島田の
筒井治一さんが確認して博物館へ
知らせてくれました。



はくぶつかんの新年

博物館だより



貝化石と鏡餅

展示物(標本)は博物館の生命です。
玄関ロビーの貝化石に鏡餅を供え、
みんなのためによく役立て
もらえるようお願いしました。
貝化石に鏡餅の
元日の情景は日本中で
ここだけと思ひます。

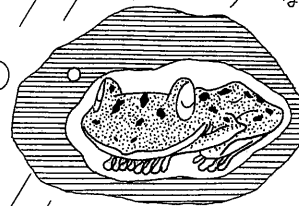
よい汗をかこうよ

友の会員に出した年賀状は、
「よい汗をかこうよ」です。

1年はスサ節氣のリズムで
動いています。15日過ぎること

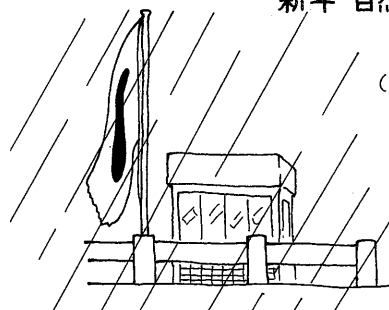
に変わって、休むことは
ありません。1年中自然を
歩いて確かめていないと
本当のことはわからなくな
ってしま
います。

酸性雨が心配な
わたしのくらしと、みんなが
守ってください。



新年 自然のぬがし

平成2年は、台風19号
(9月19日、930ミリバール)が上陸。
この台風で鳳来寺山頂の六本杉の
梢が風で折れ、なくなりました。
海老川、黒川で「水温異常
で川の魚がたくさん死んで
しまいました。(8月9日)
ことしはこの様な年にな
らぬように、
みんなでお祈り
しましょう。



メタセコイアと巣箱かけ

巣箱をかけたときは、
風で動かないような安定して
いる場所をえらびが大切です。
メタセコイアは、その点
では安全ですが、
生長がとても早いので
ひもが切れてしまうかど
しれません。
この下を通ったとき、巣箱が
落ちてきたら、けがをします。
巣箱かけにも安全点検が
必要です。



テントウムシの元日

秋の終りから
ずっとカーテンの
うらがめて
眠ったままです。
誰かみてよテントウ
ムシの新年は平凡ですが、
春の来るのが待ちきれ
ないような思ひで
眠っている
ことでしょう。



三つの実践(平成3年1月1日)

まかぬ種は生えぬ…… 実行のな
いところからはいくら待っていてと良い
結果は生まれません。

何か目標をきめて行なっ
てみる事が大切です。

• 良い館報を発行します。

• 鳳来寺山の自然について
いっしょに書きます。

• 博物館の展示
をよくします。

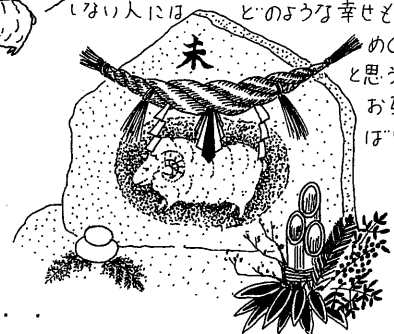


..... 鳳来寺山自然科学博物館

平成3年高島暦より

『未年の人は、人を憐れみ品と良く、
多芸であつても高ぶりしな
い。かたく遠慮かちにて
取越苦勞多く、つらめ
ことに氣をどみ、危ぶみ
過ぎで迷う臆病が
弱点である』と。

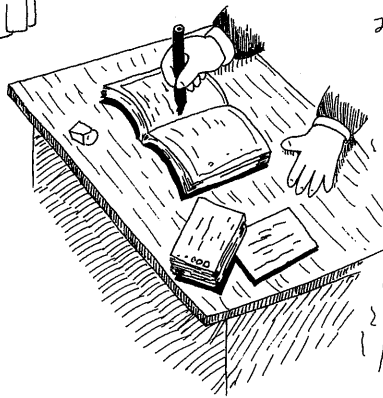
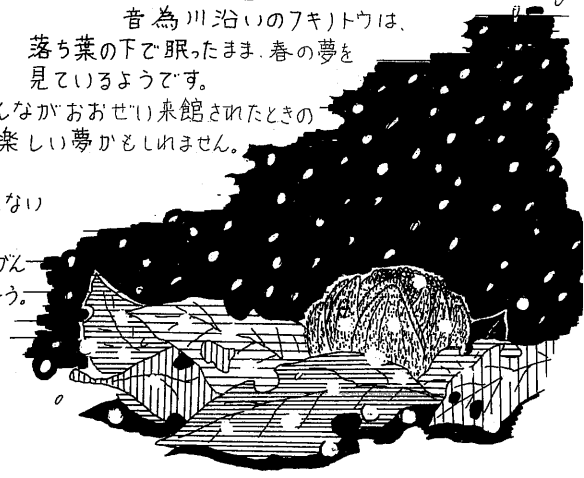
本当にあつている
のかな……汗を流して努力
しない人には、どの様な幸せも



雪の中の夢

初雪(平成2年12月27日)につづいて、
1月6日に雪が降りました。谷間の
博物館付近では、降った雪がそのま
ま春まで残るのが普通です。

音為川沿いのフキトウは、
落ち葉の下で眠ったまま、春の夢を
見ているようです。
みんながおおせい来館されたときの
楽しい夢かもしれません。



はるの博物館

はくぶつかんだより

1991.4 No.10

たのしい富士小新聞のこと



一宮市立富士小
学校の6年生が
作った自然新聞
を一冊にまとめた
ものをいただきました。
最初の1号から数えて
400号にとなり、この学校

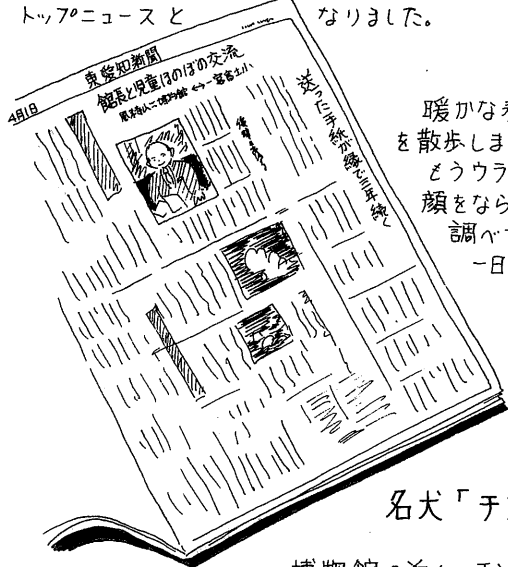
だけしか見られない自然の新聞です。

このことを東愛知新聞記者にお知らせした

ところ、取材に来館… 平成3年4月1日の新聞に

トップニュースと

なりました。

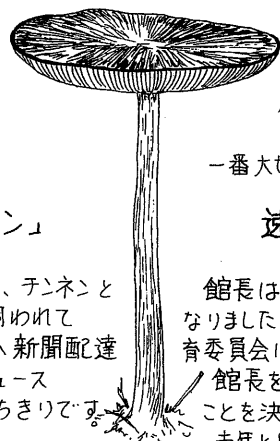


春の風

(平成3年3月29日)

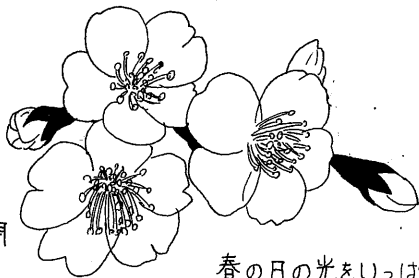
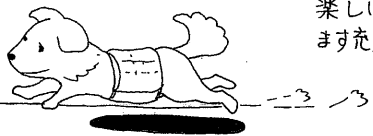
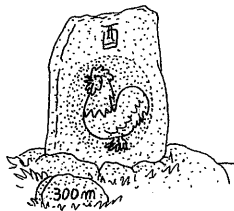
暖かな春の風につられて館外
を散歩しました。

どうウラベニガサが大小さまさまな
顔をならべています。フィールドノート
を調べてみると、去年にくらべて
一日遅かっただけです。



名犬「チンネン」

博物館の近く、チンネン、チンネンと
みんなに親しまれている白色のかしこい犬が飼われて
います。この犬が鳳来寺山中腹の松高院へ新聞配達
をするということで評判です。新聞やテレビニュース
となり、この話題でどちきりです。

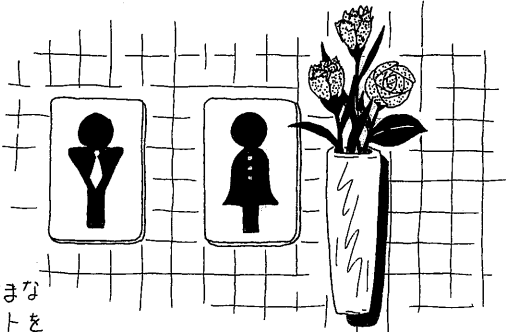


春の日の光をいっぱい浴びた満開の情景は
最高ですばらしい。

春の光 (平成3年3月9日 開花)

この博物館で一番さきに春を迎える植物は
カワツツヅクです。このツツヅクは伊豆半島先端の
河津町から親善使節としてきたものです。

植えてから10年目、一年一年
花の数を増しみごとです。



トイレの花

平成3年4月1日付で館長は定年退職となる…
鳳来町職員のみなさんから「花束」を
もらいました。館長はその中から
バラとカーネーションを選んでトイレにかざり
ました。つねひごう館長はトイレのことを
一番大切に思っていたからです。

速報

館長は定年退職と
なりましたが、鳳来町教
育委員会は前と同じように
館長をつける
ことを決めました。
去年と同じように
楽しい友の会づくり、ます
ます充実した行事が行われ
ます。

行事案内を間と
なくおとどけ
します。

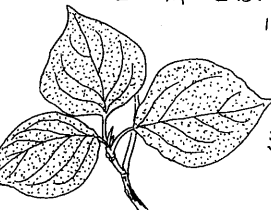


春の雨 (3月11日)

雨の降る鳳来寺表
参道で夕方暗くなっ
たころ、道路でヒキガエ
ルに出合い
ました。

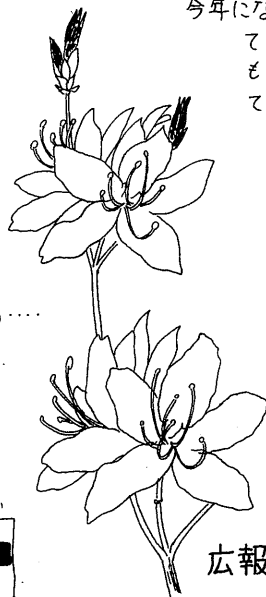
今年になってから初め
てです。

もしかして車が走っていたら、ひき殺され
てしまいます。自然のこゝろしか知らないヒキガエルのために
春の雨の日は、みんなで守ってやる
心が大切で。



ミツバツツジ
(平成3年3月29日 開花)

この花はピンク色の美しいツツジで、鳳
来寺山の早春の自然をかざる代表的な植物です。
花が散ると葉がでますが、ミツ葉です。
このような特徴からその名があります。



広報ほうらい「自然をさぐるみんなの博物館」

館長が15年間休むことなく、自然
と博物館について、無記名のまま
執筆しました。平成3年3月号で休
止することになりましたが、
題名は「館長の手紙」です。
ここで松井 保が
執筆者であった
ことをお知らせ
しました。



。。。鳳来寺山自然科学博物館。。。